

がよく読まれている。教官と学生の異なるところは、資料紹介が教官にはよく読まれているが、学生にはそれほど読まれていない。資料紹介の対象が教官になっているといえる。職員の過半数の人が「利用者の声」を読んでいるのは、利用者の要求を知ろうとするあらわれである。展示会・催物案内が学生の24%の人に読まれているのは、肩のこらない、おもしろい読みものの要素を望んでいるあらわれとも思われる。

次にこれ以外にどんな記事を望むかという質問に対して、学生は読書案内（新刊書紹介、書評、読書感想文といったもの）に関する記事が過半数、その外に、「図書の利用の仕方」、「図書館の新しいビジョン」「読みものの的なもの（興味のある記事）」という希望があり、教官は「資料紹介の充実（新刊書、稀覯書等の紹介、読書に関する記事、書評など）」が過半数で、その外に「図書館の新しいビジョン（図書館の理想像、図書館制度改革に対する意見）」「資料の調べ方」についての記事という希望が多い。職員については「図書館（他大学を含む）事情の紹介」を希望している。

〔現在の静脩についてどう思いますか〕

	教官	学生	職員
今のままでよい	57%	31%	36%
わからない	16	40	36
あらためたほうがよい	12	17	20
無回答	15	12	8
計	100	100	100

**あとがき** この一年は、京大の長い歴史においても、類を見ない激動の一年であったと言え、大げさにすぎるであろうか。「雨降って地固る」という言葉もある。京大の新生と今後のより大いなる歩みを編集子も信じたい気持である。

最終号については、この一年の締めくくりとしてふさわしい内容を盛り込めたものと思っている。昨年ご協力いただいた「静脩」のアンケートの集計結果が出たので、簡単に報告しておいた。今後の編集に何かと参考になる点も多いと思われる。コンテンツ・シート・サービス一覧表、および資料紹介は、活用していただければ幸である。「一言・ふたこと」欄に寄せられた種々の貴重なご意見についての図書館側の考え方は不十分ながら示しておいたつもりである。なお図書の「時差受入」については、重ねてご協力をお願いしておきたい。次号より編集委員も新たに、よりよきものをと考えています。

さらに全体を通して静脩をどう思っているかという質問に対して、学生については30%以上、教官については57%の人が、今のままでよいと支持している。「あらためたほうがよい」とした人について、その意見を聞いてみると、枚数を増して、内容を充実というのが30%以上で、その外に主な意見をまとめてみると、学生は「事務的にかたくなるしい、もっと興味があり、親しみのあるものに」「実益のあるものを充実」。教官は「目的をしぼり、性格をはっきりだす（情報活動に力点をおくなど）。職員は「利用者と図書館側との意見疎通の方法を考えよ」という意見が多い。なかに「不要だ」という意見も二、三みられた。

まとめとして、予想していたよりはよく読まれているが、館報という性格上、ざっと読まれるものなので、本文は簡潔で、うるおいのあるものである必要がある。主読対象については、おもしろい記事（読みものの要素）と実益のある記事（図書利用に役立つ）というように相反するようであるが、どちらも図書に関する記事を望んでいるということで一致している。そして図書館の将来ビジョンとしては、利用者側の考え方と図書館側の考え方を通して、新しいものを打ち出していくことが必要である。

なお、学生に対しての静脩のPRと配布部数が少ないということ、ならびに、ページ数の少なさからくる内容の不十分さを考慮する必要がある。